

## 混成学級における高1 古文学習指導の試み

### 内 容

〔テーマ〕	No. 1
〔テーマ設定の理由〕	No. 1
〔試みの具体的な内容〕	No. 1
資料Ⅰ 授業内容・進度	No. 2
資料Ⅱ 新規入学者へのアンケート	No. 3
資料Ⅲ 高1 全生徒へのアンケート	No. 4～11
資料Ⅳ 一学期末試験の成績分析	No. 12～13
資料Ⅴ 古典を学習し始めてからの意識上の変化	No. 14～18
〔試みの中間的評価〕	

石 田 城 之 助

〔テーマ〕

「本校における中高一貫教育のペースを落とさずに、しかも、高校からの新規入学者に対して過重な負担をかけないようにする、古文学習指導上の一つの試み。」

〔テーマ設定の理由〕

1. 本附属駒場中学校入学者は、中高一貫教育の線にそって、国語科においては、中3の週当たり授業時数5時間のうち1時間を、主として文語文法の学習指導にあてている。

そこでは、年度によって多少の差はあるが、およそ、次のような学習指導が行なわれている。

- a 一学期は、口語文法の助動詞ないし助詞以下の内容。
- b 二学期以後は、文語文法および国語教科書採録の古文教材またはプリントによる古文の補助教材。

従って、高校への進学時において、文語文法を、十分にではなくとも、一わたり学習している段階にある。

2. 高校から新規に入学してくる生徒（51年度、52年度とも44名）は、出身中学校がまちまちであり、従って、文語文法の学習程度にも自然ムラが見られ、かつ、その多数の者は文語文法を学習していない、というのが現状である。〈資料Ⅱを参照〉

3. 本高校の学級構成は、全クラスとも、1の系列の生徒29～30名、2の系列の生徒11名、計40～41名から成っている。そして、高2、高3の一部の特殊な授業を除いて、ふつう、全教科ともホームルーム構成学級単位で授業が行なわれている。

従って、上記二系列の生徒の、主としては文語文法の既習・未習の差、そして、ある程度での古文への接触の親疎の差を考慮した場合、教室での古文学習指導の展開にあたっては、担当教師による何らかの指導上の工夫が必須の課題となる。

4. その場合、工夫の内容は、
  - a 古文学習指導の目標をどこにおく（べき）か。
  - b 対象生徒の素質・能力・興味・関心・意欲の程度はどうであるか。という二点と切り離しては考えられない。
5. 上記二点のできるだけ明確な把握に努めつつ、可能なかぎり、1の系列の生徒（および、2の系列中の生徒で1の系列の生徒に準ずる者）の学習意欲をも満足させ、かつ、2の系列の生徒（および、1の系列中の生徒で2の系列の生徒に準ずる者）の多数の者に学習上の過大な無理を来たさないようにするための一つの試みとして、以下の実践を計画し、実

施してみた。

〔試みの具体的な内容〕

1. 教室で教材として扱う作品ごとに、すべて、教師の手によって、必要と認められた範囲内で、語法について解説したプリントを作成し、これを事前に全生徒に配布する。
2. このプリントは、教室での学習内容として正面から取り上げることはせず、生徒各自の家庭での予習・復習時における、語法面（ひいては内容理解面）に関する学習の参考・手掛りとして利用させる。
3. 教室での授業内容は、できるだけ古文そのものに多く接することを目標とし、細部に捉われすぎることなく、古文の文体に慣れ、親しむことを目指し、そのための、教師による範読、および生徒自身への指名読みを重視する。
4. 上記プリント配布の最大の狙いは、中学校で文語文法をあまり（あるいは、ほとんど）学習して来なかった生徒が、これを参考として自学自習を試み、ほぼ一学期、さらには夏休みの期間を通しての学習により、二学期以後は、生徒全体が文語文法に関しては同一線上に並んで学習してゆけるようにすることを目指したところにある。
5. 語法面の学習は、主として家庭での学習に任せてある以上、当然、生徒には疑問ないし理解できないところが生じてくる。それらの点に関しては、教室で質問すること、あるいは個人的に教師のもとに質問・相談に来ることを指示しておく。
6. プリントをどの程度利用しているか、あるいは、理解の程度はどの程度であるか、等については、授業中、機会をとらえて生徒に呼びかけてみたり、質問をしてみても、状況を打診する。
7. 小まめな小テストは、生徒の理解度を測り、学習を刺戟して、一見よさそうに思えるが、過重な負担を強いる惧れが大きいので避ける。4で目指した狙いの達成度は、一学期末の試験のできればで考量する。

資料I 52年度 高1 古文授業内容・進度

(授業時数) 週当たり 2時限。

(使用教科書) 角川書店「高等学校 故一 三訂版

	4月11日(月)	(新入生高1オリエンテーション。授業なし。)
1	13日(水)	古文学習の初めにあって、導入の話
2	18日(月)	「検非違使忠明，清水にして……」の全文。
	20日(水)	(国電ストのため，自宅学習。授業なし。)
3	25日(月)	「つはものだてける者，わが影を見て……」の前半。
4	27日(水)	同 上 の後半。
5	5月 2日(月)	「鈴鹿の山にして，蜂，盗人を……」の前半。
6	4日(水)	同 上 の後半。
7	9日(月)	プリント教材「利仁の將軍，若き時，……」第1時。
8	11日(水)	同 上 第2時。
9	16日(月)	同 上 第3時。
	18日(水)	(菅平校外生活のため，授業なし。)
10	23日(月)	同 上 第4時。
11	25日(水)	同 上 第5時。
12	30日(月)	「今昔物語集」のまとめ。語法上注意すべきことのまとめ。
13	6月 1日(水)	「平家物語」の導入。「鹿の谷」の前半。
14	6日(月)	「鹿の谷」の後半。
15	8日(水)	「鹿の谷」から「忠度の都落ち」への推移等。
16	13日(月)	「忠度の都落ち」の前半。B生徒へアンケート用紙配布。
17	15日(水)	「忠度の都落ち」の後半。アンケート用紙回収。
	20日(月)	(教師欠勤のため，授業なし。)

18	6月22日(水)	生徒全体にアンケート調査。参考「忠度の最期」
19	27日(月)	「逆櫓」の前半。
20	29日(水)	同上の後半。
21	7月4日(月)	「能登殿の最期」
22	6日(水)	同上のまとめ。「平家物語」のまとめ。
23	11日(月)	<期末考査>

- <注> 1) 1年4組のみは、5月9日(月)，11日(水)の2日間、いずれも生徒自治会総会と授業時間とがぶつかったため、授業なく、それだけ圧縮して「利仁の將軍、……」を学習した。
- 2) 6月13日(月)欄のB生徒とは、本附属駒場中学校以外の中学校から進学してきた生徒を指す。

資料Ⅱ 高校から新たに入学した生徒に対するアンケート

「中学校で、古典及び文法についてどのくらい学んだかを知り、今後の国語の授業の参考にしたいので、次のアンケートに答えなさい。Ⅰ～Ⅴについては、少しでも学んだことがあれば、記号を○で囲みなさい。ただし、中学校で学んだことだけについてで、個人的に勉強したものは除きます。」の問いに答えたもの。

(対象) 51年度・52年度とも44名。

(調査期間) 昭和51年6月・同 52年6月。

<注> 以下の数字は人数を示す。左側51年度・右側52年度。

Ⅰ 次のことについて			Ⅱ 口語の文法について			Ⅲ 文語の文法について		
ア 口語の文法	44	44	ア 名詞(含代名詞)	40	43	ア 名詞(含代名詞)	4	4
イ 文語の文法	14	16	イ 動詞	44	44	イ 動詞	12	6
ウ 古文	43	44	ウ 形容詞	44	44	ウ 形容詞	7	7
エ 和歌・俳句	43	44	エ 形容動詞	44	44	エ 形容動詞	7	7
オ 漢文	20	17	オ 連体詞	40	44	オ 連体詞	2	2
カ 漢詩	32	34	カ 副詞	41	44	カ 副詞	2	3
			キ 接続詞	41	43	キ 接続詞	1	2
			ク 感動詞	40	39	ク 感動詞	1	2
			ケ 助動詞	43	42	ケ 助動詞	7	8
			コ 助詞	40	41	コ 助詞	6	8
			サ 補助用言	31	32	サ 補助用言	1	0
			シ 敬語法	29	26	シ 敬語法	2	0
			ス 文節の関係	35	37			

Ⅳ 古文における次のことについて

ア 枕詞	3	7	3	5
イ 序詞	1		9	
ウ 掛詞	1	8	2	1
エ 縁語	7		1	0
オ 対句	1	7	1	6
カ 係り結び	3	1	3	9
キ 確定条件 仮定条件	1	2		9
Ⅴ 古典作品について				
ア 竹取物語	4		3	
イ 枕草子	3	3	3	3
ウ 説話	1	9	2	6
エ 平家物語	2	1	3	1
オ 徒然草	3	1	4	2
カ 狂言	1	5	1	7
キ 和歌	3	9	4	1
ク 俳句	3	3	3	7
ケ 論語	1	6	2	0
コ 漢詩	2	4	3	3
サ 故事成語	1	9	2	5
シ その他				
・紫式部日記	2			
・奥の細道	2		4	
・万葉集			1	
・源氏物語			1	

Ⅵ 古典学習上の困難点

① 文法について				
ア 学習しにくい 勉強法がわからない	1	2	2	2
イ 助動詞	8		2	9
ウ 助詞	5		2	7
② 古文について				
ア 語の意味	8		2	0
イ 文の意味	5		1	9
ウ 勉強のしかた	3		2	1
エ 参考書の選定 問題集	3		1	4
オ 歴史的背景	2		8	
カ 訳し方	1		2	4
キ どこまで読みと るか	1		1	8
③ 漢文について				
ア 漢字	1	1		1
イ 勉強のしかた	6			1
ウ 読み方・表現	4			1
エ 文の意味	3			1
オ 語の意味	1			2
カ 時代世相と内容 の読みとり	1			1
キ 参考書	1			1
ク 適当な読み物を	1			1
ケ さっぱりわから ない	1			4

<注> Ⅵの項目の51年度と52年度との数字の差は、51年度調査では出身中学校における学習上の困難点について答えさせたのに対し、52年度調査では、本高校に入学してからの学習上の困難点を答えさせたことの相違に基づくものである。

資料Ⅲ 本校高1生徒を対象とした古文の学習に関する調査

- (対象) A 東京教育大学附属駒場中学校出身者 115名 (1組 27名,  
2組 29名, 3組 30名, 4組 29名)  
B A以外の中学校出身者 44名 (各組とも 11名)  
(調査期日) 昭和52年9月上旬

- 1) 一学期の学習を通して、何らかの意味で古文読解の力がついてきたと思いますか。
- ア かなり(ある程度)ついたと思う。
  - イ ふつう。
  - ウ ほとんど(まるきり)ついていないと思う。
  - エ その他。

「その他」の具体的記述内容 A 7名, B 4名, 計 11名

- 特についたという自覚はないが、古文に対する抵抗感はかなり少なくなったと思う。(A)
- 少しはついたと思う。(A)
- 他の人に比べるとついたとは言えないが、中学の時の無に等しい力に比べれば、力がついた。(B)
- 品詞分解・動詞・形容詞・形容動詞・助動詞(未完成だが)の活用、古文単語の意味などはわかってきたが、全体的実力は不定。(B)
- △ 短文なら読みとれるが、長文になるとわけがわからなくなる。(B)
- △ 期末試験当時は相当力がついていたが、夏休み中まるでやらなかったもので、現在は古文読解の力はまるでない、と思われる。(B)
- △ 学習というものの自体、学校で教師の話を聞いていただけで、中3～高校にかけて文法的なことを全くやらなかったもので、この段階ではわからない。(A)



区分	人 数									%				
	A				B				A	B	計	A	B	計
組	1	2	3	4	1	2	3	4						
ア	4	12	13	3	1	4	1	1	32	7	39	28	16	25
イ	15	9	16	11	5	3	8	7	51	23	74	44	52	47
ウ	7	7	1	9	3	3	2	2	24	10	34	21	23	21
エ	1	1		5	2	1	0	1	7	4	11	6	9	7

- × 中学の時も文法・語句等を授業として受けたし、一学期の授業内容は中学の時より高かったとは言えないので、たいして力がついていない。家での学習を怠っただけ、力は一時的に(?)低下していた。(A)
- × しいしいに低下していった。(A)
- × プリントの注釈が多すぎて、自主性を欠き、勉強をしなくなり、ダメになった。(A)
- (記述なし)(A)

2) 力がついた(力がつかない)と思われる場合, それは主に以下のどういう面と関連しますか。

ア 古文の表現方法(かなづかい・言いまわし)への慣れ。

イ 古語の理解(語彙が豊かになった。)

ウ 文法の理解。

エ その他。

「その他」の具体的記述内容

A  $\begin{cases} \bigcirc & 3 \text{名} \\ \times & 6 \text{名} \end{cases}$

B  $\begin{cases} \bigcirc & 0 \text{名} \\ \times & 2 \text{名} \end{cases}$

計  $\begin{cases} \bigcirc & 3 \text{名} \\ \times & 8 \text{名} \end{cases}$

- 各古典の歴史的にしめる地位 (A)
- カンが多少よくなった。(A)
- 古典常識に対する慣れ。(A)
- 古典常識についての知識。(A)
- 時代, また文化背景, その作品を生んだ土壌・思想等。(A)
- 読解力。(A)      読解。(A)
- 文脈に対する注意を怠ったため。(A)

区 分	人 数									%					
	A				B				A	B	計	A	B	計	
組	1	2	3	4	1	2	3	4							
ア	○	16	14	16	8	5	3	3	7	54	18	72	47	41	45
	×	3	5	2	8	1	1	1	0	18	3	21	16	7	13
イ	○	4	11	11	7	1	0	0	0	33	1	34	29	2	21
	×	10	9	8	14	3	2	7	4	41	16	57	36	36	36
ウ	○	8	6	14	3	4	4	2	5	31	15	46	27	34	29
	×	8	7	2	7	3	3	5	3	24	14	38	21	32	24
エ	○	0	0	1	2	0	0	0	0	3	0	3	3	0	2
	×	1	1	0	4	0	0	1	1	6	2	8	5	5	5

<注> 各選択肢の○、×は、「力がついた」とするものが○、「力がつかない」とするものが×である。

× 古文の文章に不慣れであり、読むことにアレルギー反応を起こすから。(B)

× 語彙の理解が少々足りない。(B)

× (記述なし)。(A)

3) 力がついた(力がつかない)と思われる場合、その原因は主に、どこにあると思いますか。

ア 古文への興味・関心(がある。がない。)

イ 自分の努力(による。が足りない。)

ウ 授業の進め方(がよい。が悪い。)

エ その他。

「その他」の具体的記述内容

A	$\begin{cases} \bigcirc & 12 \text{名} \\ \times & 7 \text{名} \end{cases}$	B	$\begin{cases} \bigcirc & 2 \text{名} \\ \times & 2 \text{名} \end{cases}$	計	$\begin{cases} \bigcirc & 14 \text{名} \\ \times & 9 \text{名} \end{cases}$
---	---	---	--	---	---

○ 文学史で系統的に学習した。〔1-ア〕(A)

○ 勉強の方法を変えてみたからだと思われる。→少し細かい点にも気を配ったということ。

→中3の時はほとんどやらなかったということ。〔1-ア〕(A)

○ 古文に周期的に接するという習慣のために。〔1-エ〕(A)

○ ともかく古文に接し、まがりなりにも理解したということ。〔1-エ〕(A)

○ 中学校の時には古文を学習する時間が少なく、それゆえ古文に接する時間も短かった。

しかし、高校になると「古文」という授業が始まり、その教材およびそれに関連したものを何とはなく見てゆくうちに慣れが生じて、読解する力が少しついた。

〔1-エ〕(B)

区分	人数												%		
	A				B				A	B	計	A	B	計	
組	1	2	3	4	1	2	3	4							
ア	○	9	7	9	6	2	2	3	7	31	14	45	27	32	28
	×	5	4	3	6	1	1	2	1	18	5	23	16	11	14
イ	○	4	9	8	1	1	2	1	1	22	5	27	19	11	17
	×	10	11	8	13	4	4	7	5	42	20	62	37	45	39
ウ	○	4	3	6	2	2	0	1	0	15	3	18	13	7	11
	×	3	1	4	5	0	1	1	1	13	3	16	11	7	10
エ	○	2	2	2	6	1	0	0	1	12	2	14	10	5	9
	×	1	2	1	3	0	0	1	1	7	2	9	6	5	6

＜注＞ ○・×の記号については、前項②の注を参照。

- やはり実力をつけるには参考書などを自分でやらねばならないと思うが、それをする時間がなかった。ただ興味があったので、「平家物語」を読んだ。(1-イ)(A)
- あまり好きではないが、完全に放棄せずに、部分部分に集中して——特に興味の持てた部分——学習したので。(1-イ)(A)
- 期末試験があるから、その準備のために仕方なくお勉強しました。(ほんね)。(1-ア)(A)
- 試験がある。(1-ア)(A)
- 古典に興味があっても、いざ学習という段階になると気分が乗ってこない。学校の授業も学習意欲の持続が困難である。(1-イ)(A)

- 興味・関心はあったが、努力が足りなかった。〔1-1〕(A)
- 文法はすぐ覚えられるが、語彙などを覚えるには沢山文章を読まねばならない。それだけの根気が僕にはなかった。〔1-1〕(B)
- 特別な原因なし。〔1-1〕(A)
- 成り行き。〔1-ア〕(A)
- × 時間が少なくて、文章を自分でじっくり読むことができない。〔1-1〕(A)
- × 要領よい勉強の仕方ができなかった。(特に、文法面)。〔1-1〕(B)
- × 読解力というもの是一朝一夕につくものではないから。〔1-ウ〕(B)
- × 教師の能力。授業の積極さが欠けている。〔1-ウ〕(A)
- × 完全無欠に勉強を怠ったこと。〔1-エ〕(A)
- × 努力ということもあるが、一学期を古文学習においてエアポケットにするのは、当初の予定通り。〔1-エ〕(A)
- × 眠気。〔1-ウ〕(A)
- × 水痘休暇……。〔1-1〕(A)
- × (記述なし) 〔1-ア〕(A)

4) 教材ごとに配布されたプリントを，どの程度，利用しましたか。

ア 何度も繰り返し，目を通した。

イ さっと目を通した。

ウ ほとんど(まったく)目を通さなかった。

エ その他。

5) プリントは，古文学習の上で役に立ちましたか。

ア かなり役に立った。

イ ふつう。

ウ ほとんど(まったく)役に立たなかった。

エ その他。

6) プリントを利用した場合，どのような利用法を試みましたか。

ア 文法面の参考・手掛りとして。

イ 読みの練習として。

ウ 語句の意味・現代語訳の練習として。

エ その他。

区分	人数												%		
	A				B				A	B	計	A	B	計	
組	1	2	3	4	1	2	3	4							
ア	6	7	7	1	3	2	4	3	21	12	33	18	27	21	
イ	12	15	18	15	5	5	6	6	60	22	82	52	50	52	
ウ	7	7	3	8	2	0	1	1	25	4	29	22	9	18	
エ	2	0	3	5	1	4	1	1	10	7	17	9	16	11	
ア	3	7	7	2	3	4	7	4	19	18	37	17	41	23	
イ	14	14	18	13	5	6	3	6	59	20	79	51	45	50	
ウ	8	8	5	7	3	0	1	1	28	5	33	24	11	21	
エ	2	0	1	7	0	1	0	1	10	2	12	9	5	8	
ア	13	17	24	13	7	8	10	6	67	31	98	58	70	62	
イ	6	6	7	7	5	2	0	4	26	11	37	23	25	23	
ウ	3	6	11	5	4	1	0	4	25	9	34	22	20	21	
エ	3	3	4	2	1	1	2	0	12	4	16	10	9	10	



- 4) プリントの利用程度の「その他」 A 10名, B 7名, 計 17名
- 文法面で疑問の生じた所だけ, 辞書を引くように利用した。〔1-ア〕(A)
  - 必要に応じて参照, 利用した。〔1-ア〕(A)
  - 時間が余っている時や, 不明な点があった時のみ目を通した。〔1-ア〕(A)
  - ひっかかった所だけ見直した。〔1-イ〕(A)
  - 時々必要になった時(テスト前等)目を通した。実際, 2~3回に過ぎなかった。  
〔1-ウ〕(B)
  - 授業中, 文法のことを書き加えたりするのに利用した。〔1-ア〕(B)
  - 授業中にノートがわりに利用し, その面で非常によく目を通した。〔1-ウ〕(B)
  - △ 期末試験前に目を通したのみ。〔1-ウ〕(A)
  - △ 試験前に重点的に目を通した。〔1-エ〕(B)
  - じっくり1回読んだ。〔1-ウ〕(A)
  - 一度じっくり読んで, 下の注を見ないで品詞分解をして, 二度と読みかえさなかった。  
〔1-イ〕(B)
  - △ 最初の方のプリントだけ目を通したが, 後は目を通さず。〔1-ア〕(A)
  - △ 前半の方(文法事項の説明してあるプリント)はくり返して目を通したが, 後半の方(何も書いてない方)はほとんど目を通さなかった。〔1-エ〕(B)
  - △ よく読んだものと読まなかったものとある。〔1-イ〕(B)
  - × もっと利用すればよかったと後悔をしています。〔1-イ〕(A)
  - × 教科書とかさなるプリントの意義を疑う。〔1-ウ〕(A)
  - × 完全無欠に目を通さなかった。〔1-エ〕(A)
- 5) プリントの効果(利用価値)の「その他」 A 10名, B 2名, 計 12名
- 活用形を見るのにわかりやすかった。〔1-ウ, 4-エ〕(B)
  - 役に立つように利用すれば, 十分な利用価値のあるものであったと思う。〔1-イ, 4-イ・エ〕(A)
  - △ 利用すれば役に立ったと思う。〔1-イ, 4-ウ〕(A)
  - △ 役に立てなかった(私が)。〔1-ウ, 4-イ〕(A)
  - △ 自分で調べる手間がはぶけた。〔1-イ, 4-エ〕(A)

- △ 期末には役に立ったが、古文学習の上では no。〔1－ウ, 4－エ〕(A)
  - △ 注の内容については、自分としては利用しきれただけ、実力がついていなかった。  
〔1－イ, 4－イ〕(B)
  - △ 自らあまり利用していないので、役に立つものかどうかわからない。〔1－ウ, 4  
－イ〕(A)
  - △ わからない。〔1－エ, 4－エ〕(A)
  - △ 見なかった。〔1－イ, 4－ウ〕(A)
  - × もっと合理的に要点をおさえたプリントを作れ。〔1－ウ, 4－エ〕(A)
  - × やる気が失せた。〔1－エ, 4－ウ〕(A)
- 6) プリントの利用方法の「その他」 A 12名, B 4名, 計 16名
- プリントに、授業で学習したこと、教科書の脚注の重要点をまとめて頭注としてつ  
けて、自習は主にこのプリントで行なった。〔1－エ, 4, 5, 6－ア(イ)〕  
(B)
  - 下欄(の解説)がほとんど書いてないものについては、自分で調べて書き、文法書  
と照らし合わせたり、教師に聞いたりした。〔1－ア, 4－イ, 5, 6－ア〕  
(A)
  - プリントに自分で赤ペンで注釈(文法・意味)を書き込んで利用。その後何回も読  
んで記憶。(行の間隔が広くて便利)。〔1－ア, 4, 5, 6－ア(ウ)〕(A)
  - 練習問題として、下の解説の部分を隠して、傍線部の文法事項を考えて、下と答え  
合わせする。〔1－ア, 4－ウ, 5, 6－イ〕(A)
  - ノートがわりに利用し、授業の模様を書いた。〔1－ウ, 4－イ, エ, 5, 6－ア〕  
(B)
  - ノートとして。〔1－イ, 4, 5－イ〕(B)
  - 品詞分解の練習。〔1－イ, 4－イ, 5, 6－ア〕(A)
  - △ 試験前に読み・書き取りのドリルに使えた。(ふりがながはぶいてあったから)。  
音読の練習には教科書の方が利用しやすかった。〔1－イ, 4, 5, 6－ア〕  
(A)
  - △ 試験前の総復習(意味・読み・書き)。一度だけ。〔1－ウ, 4, 5－ウ〕(A)

- △ 学期末に、授業の傾向・重点を見る参考にした。〔1－エ， 4， 5－ウ〕（A）
- △ 教科書と同じ。〔1－ウ， 4， 5－イ， エ， 6－ア・イ・ウ・エ〕（A）
- △ 教科書を忘れた時に使う。〔1－ア， 4－イ， 5－ウ〕（A）
- △ 目を通すだけで、裏は計算用紙。〔1－ア， 4， 5－イ〕（B）
- × 利用せず。〔1－エ， 4， 5－エ〕（A）
- × 利用しなかった。〔1－ウ， 4， 5－ウ〕（A）
- × 計算用紙，紙飛行機。〔1－エ， 4， 5－ウ〕（A）

7) 古文の文法を「一定期間，系統的にまとめて学習する」具体的な方法として，以下のどれがよいと思いますか。

- ア 一学期いっぱいくらいかけて，全体的に通り返す。
- イ 一学期の半分くらいかけて，重点中心に通り返す。
- ウ 古文にある程度接した二学期の前半の時期をあてる。
- エ 本校の現状では無理なので，一定期間あてられなくても止むをえない。
- オ その他。

「その他」の具体的な記述内容，省略

区 分	人 数											%		
	A				B				A	B	計	A	B	計
組	1	2	3	4	1	2	3	4						
ア	2	3	4	2	3	0	1	1	11	5	16	10	11	10
イ	11	10	7	11	2	2	2	2	39	8	47	34	18	30
ウ	7	5	10	6	5	3	5	6	28	19	47	24	43	30
エ	1	7	8	5	1	3	2	1	21	7	28	18	16	18
オ	5	6	4	7	0	4	1	1	22	6	28	19	14	18

〔補足の項目〕 A 15名, B 5名, 計 20名

「上記項目のほか、授業に対する注文があったら、何でも書きなさい。」

〈注〉 4クラスのうち、1クラスは指示を忘れて、書かせなかった。

1. 授業内容に関するもの。

- 文法的なことは十分確認できるように徹底的にやるべき。語彙についても十分な知識が得られるように、文中での意味だけでなく、他の意味も例文を出して説明した方が面白い。〔1-ア〕(A)
- 授業での文法のウェイトをもう少し増してほしい。〔1-イ〕(B)
- × ぼくの場合、文法が全然わからないので、内容把握中心では、あまり力にならないと思う。〔1-ウ〕(B)
- △ 授業について — 良かったけれど、敬語のときのような系統的な授業も時々してほしい。〔1-ア〕(A)
- △ 授業形態に読みを多く入れてほしい。〔1-ウ〕(B)
- △ 古文を外国語と考えて、一応訳を試みるのはどうでしょうか。〔1-ア〕(B)
- 今の授業のやり方に非常に満足している。〔1-ア〕(A)
- △ 広く浅く。〔1-ア〕(A)
- × 中学で古文をやるな。〔1-ア〕(A)
- × K塾秘伝のオープン。〔1-ウ〕(A)

2. 授業の進め方に関するもの。

- △ 特に基礎的理解の問題は(文法など)、生徒発表を取り入れるのもよいと思います。(授業テンポがあまりにも遅くならない程度に。)[1-ア](A)
- △ 先生中心の授業から、先生・生徒半々(生徒にやらせる)授業へ。〔1-イ〕(A)
- △ 眠気をとばすために、授業開始25分から3分ぐらい雑談する。〔1-イ〕(B)
- △ 授業に迫力がほしい。しらけてもいいから、パンチを入れないとだれてしまう。〔1-ア〕(A)
- △ 月曜の5時間目は5分短縮する必要はないのではないか? 集会の前であるから、少し延ばしてもよいのに……。〔1-イ〕(A)
- △ 「あと2分で終わります」とか言わないで、延長してもいいからがんばってやって下さい。

〔1-1〕(A)

3 試験に関するもの。

△ 期末試験に文法事項を出すのならば、授業でもっと扱って下さい。扱わないのなら、試験に出さないで下さい。〔1-1〕(A)

△ 古文一学期における試験(の成績)の85%は、その試験の前日の日曜日によってとれたものです。即ち、日曜日のたまものです。(プリントはほとんど使わず、教科書を使った。)[1-U](A)

4 その他

○ 一学期前半に配られたようなプリントは有効と思うので、再び文法的説明のついたプリントを配っていただきたい。(さらに詳しいとさらによい。)[1-1](A)

○ 日本史の本を読みながら授業を進めると、古文に興味を持ててくる。〔1-U〕(A)

資料Ⅳ 昭和52年度 第1学期高1古文期末試験成績分析

- (出題文) 1 「つはものだてける者、わが影を見て恐れをなせる語」(今昔物語集)の前半部分。  
 2 「鹿の谷」(平家物語)の教科書掲載分の全文。

<注> プリント補助教材「利仁の將軍、若き時……」は、試験範囲からはずした。

1) 問題種類別平均点の比較

- |                            |        |
|----------------------------|--------|
| ① 語句の読み(24点) 書き取り(9点)      | 1 × 33 |
| ② 未然形以下の活用形の名称(6点)         | 1 × 6  |
| ③ 用言の活用表の完成と文中の活用形の名称(10点) | 1 × 10 |
| ④ 助動詞の文中での意味と活用形の名称(6点)    | 1 × 6  |
| ⑤ 文中からの係り結びの摘出(7点)         | 1 × 7  |
| ⑥ 文中からの尊敬語・謙讓語の摘出(6点)      | 1 × 6  |
| ⑦ 文中の語句の意味・現代語訳(20点)       | 1 × 20 |
| ⑧ 文中の空欄に適切な語句を充当(6点)       | 2 × 3  |
| ⑨ 作中人物に対する作者の見方・評価の記述(6点)  | 3 × 2  |

- |                   |      |
|-------------------|------|
| ① 読み・書き取り         | 33点  |
| ②～⑥の合計(文法問題)      | 35点  |
| ⑦～⑨の合計(意味・訳・内容問題) | 32点  |
| ①～⑨全体の合計          | 100点 |

A	B	A-B
28.8	29.8	-1.0
5.8	5.9	-0.1
7.9	6.8	1.1
4.5	4.1	0.4
4.6	4.8	-0.2
4.4	4.7	-0.3
14.8	15.4	-0.6
5.1	5.5	-0.4
4.0	4.2	-0.2
28.8	29.8	-1.0
27.2	26.3	0.9
23.9	25.1	-1.2
79.9	81.2	-1.3

- A 本附属駒場中学校出身者 118名  
 B A以外の中学校出身者 44名

2) 問題種類別得点分布の比較 <注> 数字は数を示す。

①	A		B		②	A		B		④	A		B		⑤	A		B		⑦	A		B		⑧	A		B	
	33点	6	9	91		91	6点	20	18		6点	26	30	20点		3	2	6点	58		73								
32	14	20	7	9	5	36	20	5	36	41	19	5	11	5	22	18													
31	10	18	4		4	23	30	4	16	11	13	8	11	4	11	2													
30	17	18	3	2	3	16	23	3	4	11	17	10	11	3	1	2													
29	14	11			2	3	5	2	8	5	16	21	23	2	3	2													
28	13	9			1	3	2	1	6	2	15	14	9	1															
27	5	9	③	A	B	0	2	0	3		14	9	14	0	5	2													
26	8										13	8	2																
25	3			7		10点					12	6	5																
24	3		9	26	18	⑤	A	B			11	8	2	⑨	A	B													
23	3	2	8	25	18						10		2																
22	1		7	19	11	7点	5	7			9	3	5	6点	24	25													
21	1		6	7	18	6	33	34			8	2	2	5	25	25													
20	1		5	6	11	5	30	25			7	1		4	19	25													
19	1		4	2	9	4	8	16			6			3	13	9													
18		2	3	1	5	3	9	9			5	1		2	5	5													
17			2	2	2	2	7	7						1	4	5													
			1	1		1	8							0	10	7													
						0	5	2																					



資料V 「古典学習についての生徒の意識」調査から

(対象) 本校高1生徒 158名

(調査期日) 昭和52年6月下旬

8) 高等学校で古典を学習し始めてから現在<注、52年6月下旬>に至るまでの間に、あなた自身、古典学習の上で、特に何か意識上の変化を自覚することがあったら、それを以下に簡条書きで書きなさい。

<1> 良い方向に変化した、とするもの。

- 1) 興味・関心が持てるようになったとするもの。
- 2) 理解が進んだ、わかるようになってきたとするもの。
- 3) 古人・歴史・民族・社会・言語等に関するもの。
- 4) 学習の必要に関するもの。
- 5) 上記以外の内容に関するもの。

<2> 授業への批判ないし悪い方向に変化した、とするもの。

<3> 日が浅いのでわからない、変化は特に感じられない、とするもの。

<4> 全くの無記述のもの。

人数	%
71	44.9
18	11.3
10	6.3
19	12.0
22	13.9
2	1.2
12	7.5
32	20.2
43	27.2

<1>の1) 興味・関心が持てるようになった、とするもの。

- 以前は、古典などはかたくるしくて、つまらないものと決めてかかっていたが、実際やってみれば、かたくるしさは変わらないが、話の内容が単純で、案外おもしろい。あらかじめ内容を推測することに興味を抱いた。
- 内容に興味を感じるようになった。
- 文法の復習をすることで読解が楽になった。(漢文はまだわからない。)  
授業以外に少しでも読むことで興味がわいた。
- まだちょっとしか授業でも読んでいないから、よくわからない。  
だんだんおもしろいと思うようになった。
- ある程度文法がわかるようになったため、古典の内容自体のおもしろさの方にも目が向くようになってきた。
- △ 古典があまりきらいでなくなった。
- △ 古典に少しは興味を感じることができそうになった。
- 1. 漢文と英文との共通点を見いだした。  
2. 古典のおもしろさがわかってきた。
- △ 初めのうちはあまりおもしろくなかったが、中にはおもしろいものもあるものだと思うようになってきた。
- 古典を読んでみようという気になった。
- 初めは古典に対し、ただ、難しいもの、面倒なものと思っていたが、内容を理解していくうちに、多少とも興味を感じるようになった。
- 実力はさほどついたとは思えないが、それでも、作品に親しみ、それにまつわるエピソードなどを聞くにつれて、多少、興味を持った。
- 最初のうちは必修なので仕方なく予習した感があったけれど、最近は小説などを読むときのような興味をもって予習するようになった。
- いちいち辞書を調べなくても、古典文学の意味が大まかでもわかるようになり(注釈ありで)、読むのが楽しくなってきた。
- 中学校のころは、古典の学習というものを自ら敬遠していたようだったが、高校に入っ  
て微量ながらも古文というものに接し、意味などあやふやながら、読み進むうちに古典

に興味を持ち始めて、自然に学習にも取り組むようになった。

- △ 高等学校で古典を学習し始めてから現在に至るまでの間、二か月半、このような短期間ではあまり変化を自覚できないが、しいて言えば、古典に親しみを感じるようになった。
- 古文の文法に興味を持ったが、なかなか難しい。今まで古文という敬遠しがちだったが、わりと面白いものとも思うようになった。
- △ 1. 僕自身は、古典学習の目的は古典の文法その他を理解することを目的としているのではないと思っているから、広く浅く勉強したいと思っています。  
2. いくつか作品を読んでいると、助詞・助動詞などは自然に“カン”でわかってきますが、古語は自分には理解しにくい。  
3. 古典はつまらないと思っていたら、話が読んでわかるにつれて面白くなってきました。でも、日本語のくせに英語よりむずかしいので、しゃくです。

<1>の2) 理解が進んだ、わかるようになった、とするもの。

- 中学校では大意をつかむので精一杯だったが、登場人物の細かい気持ちがわかるようになった。
- 初めは慣れていなかったせいか、古文と聞くだけでもいやだったが、最近は特に話の筋がつかめるようになった。
- 読みやすくなった。また、意味もだいたいとれるようになった。
- 1. 文法的に深く追求するようになった。  
2. 個々の古語の意味を覚えるようになった。  
3. 作品全体をしてみるようになった。  
4. 古文読解が特に困難でなくなった。(と言っても、むずかしい。)  
5. 授業がおもしろくなった。
- 中学生のときは古文は大の苦手であったが、最近辞書をこまめに引くようになったので、文の内容がだいたいわかるようになった。
- △ 初めは抵抗を感じたが、今は少し抵抗が減った。
- 1. 私たちは口語の文章を読むにあたって文法などはほとんど気にしない。なぜならば、口語ではどのような言葉についても経験で知っているし、その活用もその場に合ったものが自然と理解できるからである。

2. 中学生のとき、古文を読むときには口語文と同じような気持ちで、文法的なことはあまり頭に置かず読んでいたので、重要なところで意味をとり違えたりすることがあった。しかし最近、いろいろな作品を学校で、家で、読んでいるうちに、しだいに文法の重要性を理解してきたように思う。なぜなら、私たちは現在、古語を日常生活において使用しないからである。

3. 最近読む文章の意味はだいたい理解できるようになってきた。

- 1. 原文だけでそのまま意味がとれるようになったのもある。
- 2. 旧字体に慣れた。
- 昔よりも楽に異和感なく読めるようになってきた。
- 中学生のときは文法をほとんど無視していたが、高校生になって気にするようになった。その後、文法が気になって仕方がないこともあるが、その反面、読みの正確さが増した。古文の一節をときどき口にするようになった。

<1>の3) 古人・歴史・民族・社会・言語等に関するもの。

- 古典を学ぶことは昔の人々の生活様式・考え方・物のとらえ方などを理解することが重要で、現代のぜいたくな毎日を過ごすわれわれ若者たちにとって、それは非常に有用なことだと考えるようになった。そして、その教訓的な事<sup>●●</sup>がらをかてとし、明るい未来を築いていこう<sup>ノ</sup> という気が生じてきた。
- 古典の読解が手近なものになるにつれ、古人と、日本人としての現在の私との歴史的なつながりを、まだ理解したとは到底言えないが、たまにふと考えてみる機会が多くなった。
- 時代背景にも興味もいって、歴史が面白くなった。古代の人々に対して近密感を感じている。
- 表記の方法が多少かわっても、話の裏に流れる心は古今かわらないことに気づきました。古典を堅苦しく考えずに、ある程度の余裕を持ちながらひとつひとつの言葉をていねいに扱っていけば、古典もすべてがわからないというわけではないことがわかりました。
- 1. 古典により親しみを感じるようになった。
- 2. 古典がわかりやすくなった。
- 3. 古い時代のことがわりに具体的によくわかってきた。以前はもやもやした気分だった。

た。

- たえば、今昔物語が武士階級の進出する時代に書かれていたり、平家物語が貴族階級の没落する時代に書かれていたり、ということを見ても、古典を読むときにその社会的背景を考えることが大切だと思った。
- 1. 古人の物の考え方と自分の物の考え方を対比して考えるようになった。  
2. 古文の美しさがわかるようになった。  
3. 文法がよくわからないので細かいことがよくわからないが、古文のリズムを感じられるようになった。
- 実際にあった昔の事がらを、言葉を通して読むことによって、昔を思ってみる気持が強くなってきた。
- 日本民族には日本民族としての集団遺伝のような形で伝わってきている「考え方」、いや、「感じ方」があるのだということを、あらためて認識させられる思いがする。「枕草子」なども貴族文学にすぎず、農民からの搾取の上に成り立っているという欠点もあるのだが、やはり文学的に面白いと思う。特に意識上の変化と言われれば、私のフェミニズムが進んできたような気もする。
- 最初のうちは、古文などというものはどれも皆同じ形のものばかりと思っていたが、現代文と同じようにジャンル（随筆・日記……）別で表現のされ方などが異なり、その形式に托した作者の意図というものが、多少わかるようになってきた。
- 古文にある程度の量接してくると、これは言葉というものに共通なことかも知れないが、現代文と古文とを比較してみると、言葉というものが時代の流れで大きく変わっていくということを、改めて実感したようだ。
- 古語と現代語は、さほど違わないような気がしてきた。
- 1. 同じ日本語であるにもかかわらず、意味を読みとるのが非常にむずかしいので、古文の勉強はおろそかにできないと痛感した。  
2. 古文独特の言いまわしに非常に関心を持った。辞書や文法書なしで読めるように早くなりたいと思う。  
3. 現代語より古語の方が発音がきれいなような気がする。
- 1. 古語辞典の利用価値の高さと、引き方を学んだ。

2. 現代語の中にあらわれる古語について、おもしろいです。
- 習いたての頃の暗号解読という感覚から、日本語として考えることができるようになった。
  - 漢文を読んで、中国の人のスケールの大きい生き方がうらやましかった。
  - もっと漢文を読み、中国の古人の理想としたものを考えてみたいと思った。
  - 古語を覚えようとするようになった。辞書を引くようになった。
  - 1. 「光陰矢の如し」ということわざの意味を知りました。
  - 2. 一見無駄に思える事物が、実は大切なものなのかも知れないと思うことがあります。

<1>の4) 学習の必要に関するもの。

- 特にないが、古典全般について言うならば、読む必要性があると感じはじめた、ということである。
- 文法が思ったより難解なので、もっと勉強しなければならない。
- 文語文法について学びたい。
- 古文は、文法（特に助動詞と助詞）にやや抵抗を感じる。漢文はありません。
- どうしても文法を中心にやっぺいこうとしてしまう。
- もっと文法や語彙に精通して、理解を深めねばならぬと思った。
- 古典に対し辞書を引き自分で学習してみると、かなり全般的な広い視野で理解できる自信がつき、他の教科の自信ともなった。古典だと現代語と同じ表現で意味の違いことも多く、語彙を中途半端にしてはならないこともよくわかったが、具体的にどう理解していけるのか、わからない。（学習法がつかめない。）
- 語彙が不足だと、なにかと不安になるから、やはり語彙が多い方が得だ。
- 初めは古文学習は文法が大変なのかと思っていた。しかし、それより古文特有のことばや言いまわしを理解することの方が大変であるように思えてきた。漢文は特にない。
- ある新しい作品にぶつかったら、文法や解釈を後回しにして、まず声を出してできるだけすらすら読めるまで練習するようになった。
- 古典は付け焼刃ではダメであるということがわかった。
- 中学の間（教駒）はそれほど難しいと思わなかったが、高校になってまじめにやってみると、だんだん難しさがわかった。

- 以前より難しいと思うようになった。(特に、漢文の読み。)
- 入学当初は教駒中出身の連中は文語文法の学習を既にしていることに圧倒され、嫌な気がしたが、真面目にやればそう難しくもなく、まあ第二外国語のつもりでやれば、こんな楽なことはあるまいと、毎日2~5語の現代語と意味の違う古語を覚えることから、この“アイガー北壁”征服を開始した。箇条書きで書くと、
  1. 最初いやだった古典学習にある程度興味を感じだした。
  2. 漢文は(よい先生に恵まれたせい)よくわかって、漢文アレルギーを克服した。
  3. 古典の勉強に予想以上に時間がかかったため、他の教科の勉強がおろそかになった。
- 古文というものを学習するとき、単に日本語の昔の形というのみならず、新しい外国語を習うような意識が必要なことを身をもって感じた。
- 最近になって、古典は外国語を学習するのと同じ意志で学ばなければならないと思うようになった。
- むずかしく、また、慣れないので、つい受け身的に授業を聞いてしまう。早く慣れるか、コツをつかむかして、やっていて面白いものにしたい。
- もっと勉強しなければならないと思うようになった。
- 古文の文法が重視されてきたせいか、古文の学習にやや抵抗を感じるようになった。(読むことは好きだし、古文の文章には抵抗なく接しているが……)。文法をマスターすれば、この点は解消されると思う。
  - 1. 古文の語彙の力不足で、文章をはっきりつかみとれないことにもどかしさを感じた。
  2. 英語よりも勉強しにくいことばだと痛感してきた。
  3. 学校の授業だけでは語彙もあまりふえそうもないし、やはり自分で何かしなければという必要に迫られてきた。
- 1. 古文に対する感覚があやふやで、かえって重荷になってきた。
  2. 理由は、古文の学習方法が漢文の学習方法に比べて、文法内容にかけているため。と、語彙の把握がむづかしい。
- 1. 古文は、最初のうちはプリントを読むことが
 

超	{	くだらない、めんどくさい、身につかない あほらしい、ばからしい、やめたほうがいい	}	と思った。
---	---	---	---	-------

今、イヤイヤながらプリントをやると、思ってたより、

{ やりやすい、おもしろいところもある、時間がかかる }  
{ けっこう身につく、どっさりためなければよかった }

と思っている。

2 漢文は、まだ何とも思っていないが、めんどくさそうだ。

<1>の5) 上記以外の内容に関するもの。

- 英語で書かれた詩(もちろん簡単なもの)を、古文調で訳すようになった。
- 何となく人間が落ちついてきたような気がする。

<2> 授業への批判ないし悪い方向に変化した、とするもの。

× 古文は解釈のみで、現代国語のように主題の深い理解・討論が足りないと思う。たとえば、平家物語など「主題は全編に通じる無常感である」と教えられてから読むのは、先入観を生むものになりますヨ!

× 古文、先生のせい、おもしろくない。

× 1 古典に対する興味が色あせてきた。

2 古典学習が重荷になってきた。

3 古典を学習する意義はほとんどないと思うようになった。

4 高校生が全員国文学者になるわけではない。なのに何故、学習するのか。

5 選択科目にすべきである。文部省は誤っている。

× 1 興味が突然半減して、古文を勉強するのが嫌になった。

2 わりにチョロイと思った。

3 もっと語彙が豊富でないと、ついてゆけないと感じた。

◎ 眠気にカツ!!

× 古典の学習はあまり面白くないと思い始めた。(ただ作品を読んで解釈するだけではなく、そこにあらわれる内容の吟味をもっと深くやり、文学史におけるその作品の位置などもやったらよい、と思う。)

× 昔(中学一年ごろまでは)、古典はおもしろいものだと思っていた。しかし、今はもう.....。ねむいのねむいのとんでいけ。



- × 中学のころは少しは興味もあったけれど、高校になってからはひたすらにむずかしいだけで、よくわからなくて、興味もわかない。
- × 文法がむずかしくて苦しんでいる最中なので、そんなものを感じる余裕はない。
- △ 1. 古文を読んだあと、現代文の同系統作品を比べてみようと思う。  
〔例〕 徒然草と小林秀雄の「無常といふこと」
2. 現代文を書いているとき、かなづかいの誤りを多くするようになった。
3. 古文単語・文法も、われわれが意識して覚えねばならないほどの意義があるのであるだろうか。
- × 古典がますますきらいになった。
- × 以前は漢文も古文も興味をもって読んでいたが、高等学校に入って、漢文は興味があるが、古文はあまり興味を持てなくなった。
- △ 1. どうも僕は中学校時代から国語が苦手であったが、ここを受験するにあたって、(いやいやながら)内容読解・口語文法などを、しかたなくなくやった。それでもやはり、国語はかったるいなあーという先入観念からぬけられなかった。
2. ところが、古文の授業を受けてみておどろいた。先生には失礼ではあるが、授業は雑談が多すぎてだらけてしまって、あまりおもしろくありません。でも、教科書には限りませんが、古文を音読していくにつれ、うまく書き表わせませんが、心のうちを感動がわき上がってくる感じがしました。とくに、一つの話を読み終った後、内容のわからないところはありませんが、気分は爽快です。